

ストレリチア・レギネの開花に関する研究

第3報 遮光処理が生育・開花に及ぼす影響

*八反田憲生・**吉村 豊・河崎佳寿夫

(宮崎県総合農業試験場亜熱帯作物支場・*現宮崎県総合農業試験場・**現高鍋農業改良普及所)

Norio HATTANDA, Yutaka YOSHIMURA and Kazuo KAWASAKI : Studies on Flowering of *Strelitzia Reginae* AIT.

3. Effects of Shading on Growth and flowering

ストレリチア・レギネは、1条当たり年間6~7枚の葉が展開し、各葉の内側の葉柄基部には必ず1個の花芽となる腋芽が存在する。開花は周年見られるが、開花数は秋と春に多く、12、1月と6、7月には少ない。この開花数の季節変化は、季節による展葉数とその腋芽の座止率の差、及び展葉後の開花までの所要日数の差が組合さって起こると考えられている¹⁾。また、Venterらは、冬期の日照不足によって開花数が減少することを報告している²⁾。そこで需要量の多い年末の開花率を高めるために、前年の冬の遮光がストレリチア・レギネの生育と開花に及ぼす影響について検討したので報告する。

1. 材料及び方法

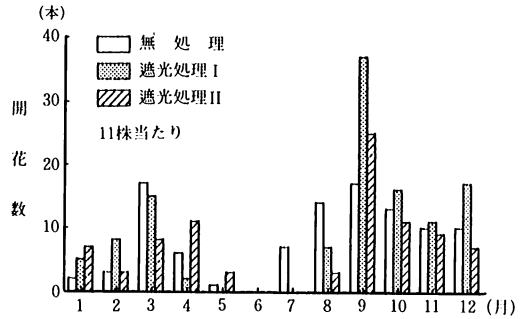
試験は、最低5℃に管理されたガラス温室、及びファイロン温室で行った。ストレリチア・レギネは、草姿、花立ち、開花期と様々な形質について個体間変異が大きいので、同一親株から分けた株が各区に配置されるように区を設定した。1985年10月に株分け後、15号鉢に定植した株を供した。遮光処理は、温室外の90%の遮光となるようにダイオネットで調節した。試験区は、遮光処理I区(12~2月遮光)、遮光処理II区(1~3月遮光)、及び無遮光区とした。処理は1984年12月から、1987年3月まで繰り返し実施し、1985年4月から月ごとの展葉数、開花数、切花長、分けつ数について調査した。

2. 結果及び考察

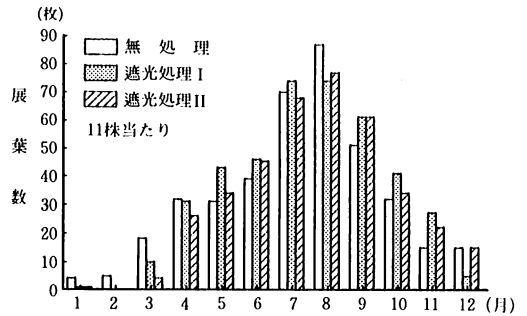
遮光処理期間中、及び処理直後の展開葉数は、無処理区に比べて減少した。開花は、両処理区とも8月から始まり、無処理区に比べて1か月遅れた。12月の開花数は、遮光処理I区において増加したが、これは遮光中に抑制されていた生育が処理後逆に促進されたためと考えられる。すなわち4~5月に展開した葉の腋芽の開花率が高くなり、その結果12月の開花数が増加したと考えられる。また、遮光処理I区で9月の開花数が増加しているが、これは遮光処理前の11月の展開葉に対する開花率が高くなったためと考えられる。遮光処理II区では、12月の開花数の増加はみられず、逆に減少した。これは普通栽培で展葉が始まる3月まで遮光したために、その後の生育が抑制されたためと考えられる。

分けつ数及び切花長には遮光処理の影響は認められなかった。

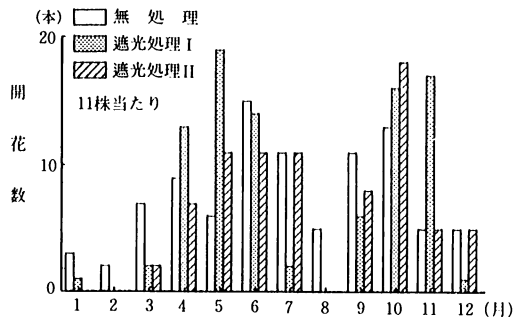
以上のことから、ストレリチア・レギネは、12月から2月まで90%遮光することにより、年末の開花率を高めることができると思われる。



第1図 月別開花数 (1985年4月~'87年12月)



第2図 月別展葉数 (1985年4月~'87年12月)



第3図 展葉月別腋芽の開花数 (1985年4月~'87年3月)

引用文献

1) 吉村豊・河崎佳寿夫・武内和俊：九州農業研究, 47, 231, 1985.
 2) VENTER, H.A., SMALL, J. G.C. and HALEVY, A.H. : *Jl S. Afr. Bot.* 46 (3) : 305~311, 1980.